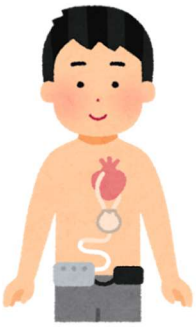
≪難病を正しく理解していただくために≫

令和８年１０月改訂

特発性拡張型心筋症とは　どんな病気？

心臓は、収縮と拡張を交互に繰り返すことで全身に血液を送り届けるポンプとしての役割を果たしていますが、特発性拡張型心筋症（以下、拡張型心筋症）は、心臓（特に左心室）の筋肉の収縮する能力が低下し、左心室が拡張してしまう病気です。国における心臓移植適用症例の 8 割以上を占める慢性進行性の病気です。しかし、近年は薬物治療および補助人工心臓等の非薬物治療が目覚ましい発展を遂げており、長期予後改善効果が認められています。心臓の病気の中には、高血圧、弁膜症、心筋梗塞などが原因で拡張型心筋症と同じような心臓の異常を起こしてしまうケースもあり、それらではないことを確認することは拡張型心筋症を診断する上で重要です。



患者さんはどのくらいいるのですか

令和 5 年度末の拡張型心筋症医療受給者証所持者数は約 18,100 人でした。60 歳前後の患者さんが最も多いという報告がありますが、幅広い年齢層に発症します。男女比は 2.6：1 と男性に多い傾向がみられます。

特発性拡張型心筋症の主な症状

主な症状は疾患の進行に伴い変化していきますが、易疲労感や動悸、呼吸困難、浮腫や不整脈等の症状があります。

動悸、労作時呼吸困難、易疲労感

安静時呼吸困難、発作性夜間呼吸困難

浮腫、不整脈、胸痛

進行

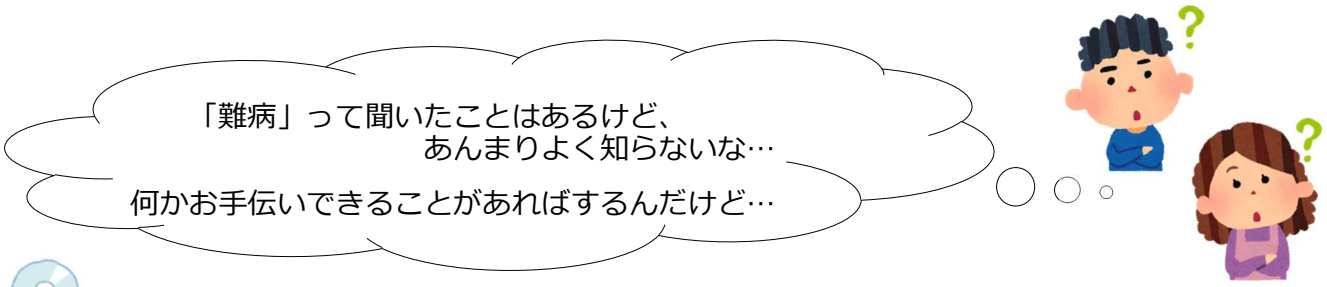


進行には個人差が大きく、急速に悪化するケースもあります。
そのため、重症化のリスクを防ぐためには早期発見・早期治療が重要となります。

難病の患者さんのなかには、援助や配慮を必要とすることが外見からは分かりにくい方もおられますので、困っているようであれば、援助や配慮をお願いします。

裏面もご覧ください

知ってください！「難病」のこと





難病は、発病の原因が明らかになっておらず、治療方法が確立していない病気なんだ。
発症割合は低いけれど、誰もが発症する可能性があるんだよ。

「難病の患者に対する医療等に関する法律」において、

難病は**「発病の機構が明らかでなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病であって、当該疾病にかかることにより、長期にわたり療養を必要とすることとなるもの」**と定義されています。



難病の患者さんの症状は様々です。長期の療養生活を必要としますが、適切な治療等を行い管理を継続することで、在宅での療養生活や就労、就学が可能な疾病もあります。

○難病のうち、国が指定する疾病に該当する方に対して、法律に基づき医療費の自己負担の一部を公費で負担する制度があります。（指定難病　医療費助成事業）

＊対象となる疾病などについては、「難病情報センター」のサイトにて確認できます。
http://www.nanbyou.or.jp/

＊詳しくは、大阪市の難病対策に関する大阪市ホームページにてご確認ください。

https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000074083.html

なお、小児の方へは、「小児慢性特定疾病　医療費助成制度」もあります。

ご存知ですか？ヘルプマーク

難病の患者さんのなかには、ヘルプマークをお持ちの方もおられます。

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が援助を得やすくなるよう作成されたマークです。ヘルプマークを身に着けた方を見かけた場合は、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。


（赤地に白の十字とハート）

電車・バスの中で、席をおゆずりください	駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします	災害時は、安全に避難するための支援をお願いします

お問合わせ先　：　大阪市健康局保健所管理課　　電話　06－6647－0923